

翁

初日

シテ 翁

ツレ 千歳

狂言 三番叟

地は 知らず
季は 雜

翁 「とうくたらりくら。たらりあがりらゝりとう。

地 「ちりやたらりたらりら。たらりあがりらゝりとう。

翁 「処千代までおはしませ。

地 「われらせんじゅ我等も千秋さぶらはう。

翁 「鶴と亀との齢にて。

地 「幸心に任せたり。

翁 「とうくたらりくら。

地 「ちりやたらりたらりら。たらりあがりらゝりとう。

千歳 「鳴るは滝の水。く。日は照るとも。

地 「絶えずとうたり。ありうとうとうとう。

千歳 「絶えずとうたり常にとうたり。(千歳舞)

千歳 「処千代までおはしませ。

地 「我等も千秋さぶらはう。

千歳 「鶴と亀との齢にて。処は久しく栄え給ふべしや。

鶴は千代経る君は如何経る。

地 「万代こそ経れ。ありうとうとうとうとう。

翁 「総角やとんどや。

地 「尋ばかりやとんどや。

翁 「やあ座して居たれども。

地 「参らうれんげりやとんどや。

翁 「松やさき翁や先に生れけん。いざ姫小松年くらべ

せん。

地「そよやりちやんや。

翁「およそ千年の鶴は。万歳楽と歌うたり。又万代の

池の亀は。甲に三極をそなへたり。渚の砂索々と
して。朝日の色を朗じ。滝の水冷々として。夜

の月鮮かに浮んだり。天下泰平國土安穩。今日の

御祈禱なり。在原や。なぞの翁ども。

地「あれはなぞの翁ども。そやいづくの翁。とうく。

翁「そよや。(神ガク)

翁「千秋万歳の。歓びの舞なれば。一舞まはう万歳
樂。らく

地「万歳樂。

翁「万歳樂。

地「万歳樂。

翁

一 日 目

シテ 翁
ツレ 千歳
狂言 三番叟

翁 「とうくたらりくら。たらりあがりらゝりとう。

地 「ちりやたらりたらりら。たらりあがりらゝりとう。

翁 「処千代までおはしませ。

地 「われら等も千秋さぶらはう。

翁 「鶴と亀との齢にて。

地 「幸心に任せたり。

翁 「とうくたらりくら。

地 「ちりやたらりたらりら。たらりあがりらゝりとう。

千歳 「千歳ましませ千歳ましませ。松の梢に。

地 「鶴や住むなり。ありうとうとうとう。(千歳舞)

千歳 「鶴や住むなり鶴や住むなり。

「君が千歳を経ん事も。天つ乙女の羽衣よ。千歳ま

しませ松の梢に。

地 「鶴や住むなり。ありうとうとうとう。

「君が千歳を経ん事も。天つ乙女の羽衣よ。千歳ま

翁 「総角やとんどや。

地 「尋ばかりやとんどや。

翁 「やあ座して居たれども。

地 「参らうれんげりやとんどや。

翁 「松や先。翁や先に生れけん。いざ姫小松年くらべせん。

地 「そよやりちやんや。

翁

「およそ千年の鶴は。
せんねん つる
万歳楽と歌うたり。
まんざいらく うた

又 万代

の池の亀は。甲に三極をそなへたり。渚の砂さく

くとして。
朝の日の色を朗じ。
滝の水冷々とし

て。
夜の月鮮よる
つきあざやかに浮うかんだり。
天下泰平國土安穩てんがたいへいこくどあんをん。

今日の御祈禱なり。
在原やなぞの翁ども。

地「あれはなぞの翁ども。そよや何くの翁。^{いづ}
とうく。^{おきな}

地
「そよや。
(神ガク)

翁
「千秋万歳の歎びの舞なれば。
一舞まはう万歳樂。」

地
「万歳楽。
まんざいらく。

翁
「万歳樂。」

地
「万歳楽。
まんざいらく。

翁

三日目

シテ 翁

ツレ 千歳
狂言 三番叟

翁 「とうくたらりくら。たらりあがりらゝりとう。

地 「ちりやたらりたらりら。たらりあがりらゝりとう。

翁 「処千代までおはしませ。

地 「われらも千秋さぶらはう。

翁 「鶴と亀との齢にて。

地 「幸心に任せたり。

翁 「とうくたらりくら。

地 「ちりやたらりたらりら。たらりあがりらゝりとう。

千歳 「万歳ましませ。万歳ましませ巖が上に。

地 「亀や住むなり。ありうとうとうとう。(千歳舞)

千歳 「亀や住むなり。亀や住むなり。

「君が万代経ん事も。天つ乙女の羽衣よ。万代まし

ませ巖が上に。

地 「亀や住むなり。ありうとうとうとう。

翁 「総角やとんどや。

地 「尋ばかりやとんどや。

翁 「やあ座して居たれども。

地 「参らうれんげりやとんどや。

翁 「松や先翁や先に生れけん。いざ姫小松年くらべせ
ん。

地 「そよやりちやんや。

翁

「およそ千年の鶴は。万歳樂と歌ふたり。又万代の

池の亀は。甲に三極をそなへたり。渚の砂索々と

して。朝の日の色を朗じ。滝の水冷々として。夜

の月鮮かに浮んだり。天下泰平國土安穩。今日の

御祈禱なり。在原やなぞの翁ども。

地「あれはなぞの翁ども。そやいづくの翁とうとう。

翁「そよや。(神ガク)

翁「千秋万歳の。歓びの舞なれば。一舞まはう万歳
樂。」

地「万歳樂。」

翁「万歳樂。」

地「万歳樂。」

樂。

翁

四日目

シテ 翁

ツレ 千歳
狂言 三番叟

翁 「とうくたらりくら。たらりあがりらゝりとう。

地 「ちりやたらりたらりら。たらりあがりらゝりとう。

翁 「所 千代までおはしませ。

地 「われらも千秋さぶらはう。

翁 「鶴と亀との齢にて。

地 「幸 心に任せたり。

翁 「とうくたらりくら。

地 「ちりやたらりたらりら。たらりあがりらゝりとう。

千歳 「鳴るは滝の水。鳴るは滝の水日は照るとも。

地 「絶えずとうたり。ありうとうとうとう。

千歳 「絶えずとうたり。常にとうたり。(千歳舞)

千歳 「君の千歳を経ん事も。天津乙女の羽衣よ。鳴るは

滝の水日は照るとも。

地 「絶えずとうたり。ありうとうとうとう。

翁 「総角やとんどや。

地 「尋ばかりやとんどや。

翁 「やあ座して居たれども。

地 「参らうれんげりやとんどや。

翁 「千早振。神のひこさの昔より。久しけれとぞ祝ひ。

地 「そよやりちやんや。

翁 「凡そ千年の鶴は。万歳樂と歌舞たり。又万代の池

の亀は。かめ

かふ
さんきょく
そな
甲に三極を備へたり。
渚の砂索々として。

朝の日の色を朗じ。
滝の水冷々として。
夜の月あ

ざやかに浮んだり。
天下泰平國土安穩。
今日の御

祈禱なり。在原やなぞの翁ども。

「あれはなぞの翁ども。^{おきな}そや何くの翁とうとう。^{おきな}

翁「そよぐ。」

(神ガク)

翁
「千秋万歳の歎びの舞なれば。
一舞まはう万歳樂。」

地 翁 地
「万歳樂」
「万歳樂」
まんざいらく まんざいらく

地
「万歳樂。」

24

23

翁

法会舞

シテ 翁
ツレ 千歳
狂言 三番叟

翁 「とうくたらりくら。たらりあがりらゝりとう。
地 「ちりやたらりたらりら。たらりあがりらゝりとう。

翁 「処千代までおはしませ。

地 「われら等も千秋さぶらはう。

翁 「鶴と亀との齢にて。

地 「幸心に任せたり。

翁 「とうくたらりくら。

地 「ちりやたらりたらりら。たらりあがりらゝりとう。

千歳 「鳴るは滝の水。^{たきみづ} 鳴るは滝の水。^{たきみづ} 日は照るとも。

地 「絶えずとうたり。ありうとうとうとう。

千歳 「絶えずとうたり。常にとうたり。^(千歳舞)

千歳 「処千代までおはしませ。

地 「我等も千秋さぶらはう。

千歳 「鶴と亀との齢にて。処は久しく栄え給ふべしや。

鶴は千代経る君は如何経る。

地 「万代こそ経れ。ありうとうとうとう。

翁 「総角やとんどや。

地 「尋ばかりやとんどや。

翁 「やあ座して居たれども。

地 「参らうれんげりやとんどや。

翁 「松や先翁や先に生れけん。いざ姫小松年くらべせ

ん。

地 「そよやりちやんや。

翁 「およそ千年の鶴は。万歳樂と歌うたり。又万代の

池の亀は。甲に三極をそなへたり。渚の砂索々と

して。朝日の色を朗じ。滝の水冷々として。夜

の月鮮かに浮んだり。天下泰平國土安穩。今日の

御祈禱なり。在原やなぞの翁ども。

翁 「そよや。(神ガク)

地 「あれはなぞの翁ども。そやいづくの翁とうく。

翁 「そよや。(神ガク)

翁 「万歳の亀是にあり。千年の松庭にあり。誠にめでたきためしには。石をぞ引くべかりける。

地 「君が代は。

翁 「千秋万歳の。歓びの舞なれば。一舞まはう万歳い楽。

翁

父尉延命冠者

ちゝのじょうえんめいくわんじや

狂言
三番叟

シテ

ツレ

千歳

翁

翁
「万歳樂。」

まんざいらく。

地
「万歳樂。」

まんざいらく。

父尉「あれはなぞの小冠者ぞや。

地「釈迦牟尼仏の小冠者ぞや。生れし所は忉利天。

父尉「育つ所は鼻が。

地「そのましまさば。とくしてましませ。父の尉親子

と共につれて御祈禱申さん。

父尉「一天雲治まつて日月の影明し。雨うるほし風穩
に吹いて。時に随つて旱魃。水損の恐れ更になし。

人は家々に楽しみの声絶ゆる事なく。徳は四海に
あまり。悦びは日々に増し。上は五徳の歌をうた

ひ舞ひ遊ぶ。そよや悦びに。又悦びを重ねれば。
ともに嬉しく。

地「物見ざりけりありうとうく。